

自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 5 年 11 月 11 日

【事業所概要【事業所記入】】

事業所番号	3491700096		
法人名	株式会社ディア・レスト福山		
事業所名	グループホーム松花園		
所在地	広島県府中市上下町上下851番地1		
	電話番号	0847-62-8322	
自己評価作成日	令和 5年 9月 9日	評価結果市町村受理日	令和 5年 11月 24日

※事業所の基本情報は、介護サービス公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先

【外部評価機関概要【評価機関記入】】

評価機関名	一般社団法人 みらい
所在地	広島県福山市山手町1020番地3
訪問調査日	令和 5 年 10 月 31 日

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点(事業所記入)】

職員一同が企業理念である「ひとにやさしい介護を目指して」の実現に向けて取り組みながら、入居者様の安全、そして、安心して生活していただけるようにスタッフ皆で一致団結して頑張っています。また、医療機関との連携により、入居者様がいつまでも健康で、その人らしく、穏やかに、笑顔で過ごしていただけるように努めています。入居者様も気軽に園庭散歩や、園外の散歩・ドライブ・買い物など気分転換ができる施設です。ご家族様にも入居者様の日頃の生活が見えるよう、広報誌・写真・手紙などを請求書などと一緒に送らせていただき、安心していただけるように努めております。また、インドネシアから技能実習生2名・特定技能実習生2名・計4名の仲間にも加わり、スタッフも充実し入居者様への寄り添う介護に努めてまいります。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点(評価機関記入)】

上下町の中心地、コンビニや駅が直ぐ近くにあり、交通の便利な場所にある。又、近くの街並みは保存地区であり、雛祭りが有名な地である。コロナ禍であるが感染予防を徹底し、雛祭り見学に行かれ、楽しんでいる。 広大な敷地のお庭には、お花や樹木等が沢山あり、春には桜も咲き、お花見もされ、その時々季節感を味わう事ができるという素晴らしい環境である。室内も廊下やリビングも広く、ゆったりとしていて、圧迫感もなく快適に過ごす事ができている。 ケア面に関しては、利用者とのコミュニケーションを大切に目配り、気配り、心配りを大切にし、安心安全に過ごせる支援を心掛けている。又、コロナ禍の為、家族の訪問制限があり、自由に訪問できない状況ではあるが、要望には柔軟に対応し、家族との絆が途切れない様務めていると共に毎月、ホーム便り、写真、お手紙を添え、各家族に送付し、家族の不安解消にも取り組まれている。医療面に置いても協力医との連携も築かれていると共に看護師の職員が数名勤務されているので、日々の健康管理ができていて安心である。 地域交流も運営推進会議が開催できない状況であり、書面にて定期的に現状や取り組み等について報告し、理解も得られ、利用者が馴染みの地で、地域の方達と共に自分らしく、安心して生活できる環境づくりに取り組まれていると共に利用者、職員の信頼関係も築かれ、温かみのある事業所である。

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	商店街への散歩や、町外、県外への日帰り旅行などのイベントも中止しています。施設内でのイベント、ドライブ等、少しずつコロナ前の状況にもどしています。面会も始めておりますが以前のように居室内での面会はしていません。	企業理念は玄関や事務所に掲示されていると共に職員で考えられた年間目標を作成し、各ユニットや事務所にも掲示し、迷いが生じた場合には振り返りの機会としている。月1回は企業理念について話し合い、再認識する機会としている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	家族以外の面会は、中止しております。地域の知り合いの方など手紙を持ってこられることはよくあります。施設内で手紙を書き20通近く郵送しておられる方もいます。返事が帰ってくることを楽しみにされておられます。	コロナ感染予防の為、地域行事の参加は控えているが雛人形祭りは見に行かれた。また、庭を散歩していると地域の方の声かけもあり、挨拶をし、関係づくりに努めている。町内会長に出会う機会もあり、その際には現状を伝えていと共に民生委員さんからは電話が時折あり、常に気にかけて頂いている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	入居者様と地元の医療機関に診察に行ったときなど、家で介護をされておられる方と認知症の対応など話をすることはよくあります。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	現在も、運営会議は中止しております。2か月に一度運営状況、行事報告、広報誌等、会議のメンバーに郵送しています。	コロナ感染予防の為、会議はできていない。2ヶ月毎に書面にて、委員の方へ現状や取り組み等について報告すると共に、ホーム便りも一緒に送付し、現状把握してもらい、意見の把握に努めている。民生委員さんからは電話で質問や意見等を頂く事もあり、サービス向上に活かしている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	月に一度、地域ケア会議や、地元の介護施設、北市民病院、湯が丘病院、福祉用具の事業所、などが集まる会議に参加し、意見交換をしています。府中市の介護保険課にも顔を出し、疑問に思っていることなど相談に行ってます。	疑問点や困難事例等が生じた場合には相談し、助言等が得られている。又、運営推進会議ができない為、定期的に現状や取り組み等について書面で報告したり、出向く事もあり、協力関係は築いている。また、包括支援センターとの連携も図られている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	松花園ではすべての身体拘束は行っておりません。身体拘束に該当することがあれば、その時に身体拘束になるので違う方法を考えるようにしております。	身体拘束はしない方針であり、玄関の施錠を含め拘束はしていない。リスクに対しては、職員で意見を出し合い、色んな工夫をしながら、制止や抑圧しない支援に取り組まれている。身体拘束廃止委員会も定期的に開催し検討した内容については職員にも報告している。又、全職員正しく理解もされている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待関連法の資料を使ったことはありませんが、事例などを参考にしたり、テレビなどのニュースを取り上げて資料を作っています。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	現在、成年後見制度を利用されておられる方がおられ、家族様と話をすることがありました。弁護士事務所ともやり取りをしました。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約書に沿って説明をしています。契約時には、家族様からの質問や、後日連絡を頂き気づきなどにこたえています。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様からの要望は、スタッフから、若しくは、直接入居者様から聞いています。必要な物を買出しに行くサービスもしています。家族様からは、面会時や、ライン、電話でお伺いしております。苦情窓口も用意しています。	コロナ禍の為、家族の訪問も制限があるが要望には柔軟に対応し、お庭や玄関先、事務所等でお会いしてもらい、その際に現状伝える中で意見の把握に努めている。又、毎月ホーム便りで行事の写真、日々の様子などを報告する中でも意見があれば気軽に伝えて頂けるようお願いしている。色んな場面での意見等は反映させている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	都度、何かあれば、スタッフから事務所に相談があります。思い付きの意見などもあるため、スタッフ皆で考えてもらい決めています。だいたいことは、自分たちで考えて決めるルールにしております。	朝礼や申し送り等で聞く機会は持たれている。日々のケアの中で気づきがあればその都度聞いている。日ごろからコミュニケーションを図る様心掛け、問いかけたり、聞き出したりするようにしている。それぞれの場面での意見や提案は運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	昇給制度があります。資格手当、年齢給(年を重ねるごとに毎年昇給)などがあります。非常勤のスタッフも常勤にと相談があれば変わりやすくなっています。その逆も対応できています。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	以前はできるだけ研修に参加できるようにスタッフに働きかけていました。参加する人はだいたい決まっていたが…。現在は、大きな研修には参加していません。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者、ケアマネまでになっています。コロナ禍以前は、他施設の行事に参加し、交流となっていたと思います。		

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居されたばかりの入居者様との関りは、大切にしています。施設に慣れておられないので出来るだけ早く馴染んでもらえるように、丁寧な言葉遣いを心掛け、安心して生活ができる環境を作るようにしています。常に新しい情報を共有出来るようにしています。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家での生活状況をお伺いし、施設での生活がより良いものとなるように努めています。入居者様の必要な物がすぐに手にできるように、入居者様が困らないよう施設側での対応も出来ることを伝えています。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居者様のその時に合った福祉用具をご家族様に相談しリース又は、購入しております。生活する上での必要な物なども、施設対応しています。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護をしているという概念をなくし、同じ人間として、また、入居者様は人生の先輩として接するようにしています。同じ松花園で生活を共にする家族のように触れ合える関係を作るようにしています。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	出来るだけ家族様の都合に合った日時に面会ができるように、ライン、電話でのやり取りをしています。地元の方で足の無い方の場合、家の玄関までお伺いすることもあります。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	認知症の進んでおられる方は難しいのですが、手紙を書ける人は、手紙での交流をしておられます。現在、地域のイベントなどにも参加できていません。商店街の散歩などに出かけたときに地元の方に会われ話をする場を作ることはあります。	訪問制限があるが、訪問の意向があれば柔軟に対応し、家族との絆が途切れない支援を心掛けている。地域のイベントには感染予防を徹底し、参加した際馴染みの方と出会う事もある。以前の様には馴染みの場所や人との関係継続は難しいが、お手紙や電話等で継続出来る様務めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	新しく入居される方がおられる時には席を考え直したりしています。仲の良い人は席を離すことができないので、テーブルを増やしたりしながら対応しています。人間関係が円満にいくようにスタッフも気を付けながら対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	大体がお亡くなりになり契約解除となるのでその後の関係はなくなります。地元の方などは、入居者様の紹介をしてくださったり、病院などで会う事もあるので、付き合いは続いています。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	出来る限り入居者様が生活しやすい場の提供に努めています。入居者様が必要なものを言われるので、お菓子や、果物、飲料など、すぐに対応して揃えています。できるだけ聞いてあげれるように対応しています。(家族様のOKがある方です)	日々のケアの中での会話や個別対応時(居室、入浴等)等で忌憚のない会話から汲み取ることがある。食べ物の希望等が出る。可能な限り思いに沿うようにしている。口頭で言われる方もいるが反面表出しない方には生活歴から選択史を出し、その時の表情から検討している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	以前は住んでおられた家まで行き、地域の方に会いに行っていました。現在はあまりできていません。墓参りや、桜、紅葉へのお出掛けが中心です。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の申し送りで入居者様の現在の状況など共有、把握できている。年をとるにつれ、食事、オムツの変更や、ドクターへの相談などこまめにできている。場合によっては、家族様に来園していただき、早めのドクターからの今後の方針などの説明をしていただいています。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	スタッフからの情報を参考にし、家族様、入居者様の希望をうかがい介護計画の作成をしています。	家族や本人の希望、主治医の所見、日々の対応の中での課題やニーズについて、職員の意見等を基に担当者会議で検討し、柔軟且つ現状に即した計画を作成している。家族の承諾も得ている。状況変化が起きた場合は即見直ししている。モニタリングは毎月、見直しは半年となっている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の朝の引継ぎ時に前日の様子や変わったことがあれば申し送りはできている。必要な事や日々の気づきなどは、申し送りノートで共有で把握できている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	小回りの出来る施設を目指しています。他の施設ではできないことなども支援できるようにしています。出来るだけ家族様の負担をなくすために、身の回りの物や、利用者様が必要とされているものはすぐに揃える対応をしています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域資源の活用はあまりできていません。地元の図書館から本を借りての方はいます。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	歯科受診や、病院受診など、本人様、家族様の希望の病院に受診をしています。コロナ禍中は、歯科受診は1か所に通うようにさせてもらっていました。毎週月曜日は北市民病院より施設への往診もあります。	協力医療機関の往診が毎週月曜日となっている。歯科や他科については事業所が通院支援されている。協力医は24時間指示が得られる。又、看護師の職員が数名いる為、日々の健康管理や状態変化にも即対応ができる体制であり、医療面は安心である。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日頃から何か気になることがあれば常に看護師に相談報告をしています。日中一人から二人看護師を出動対応しています。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	コロナ禍になり、病室には行けなくなったので、往診時にドクターから説明を頂いています。退院時も北市民の地域連携室と連絡を取り合い、スムーズな退院に努めています。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	入居者様の状態の変化を感じられた時には、ドクターから家族様への今後の流れリスクなどの説明が往診時にあります。入居時にも、重度化した場合の家族様の思いを意思確認用紙に記入していただいています。	利用開始時、終末期の指針を基に説明し理解は得られているが、重度化した場合には主治医から家族に伝えられ、今後の状況について説明があり、主治医、家族、事業所等三者で再三にわたり話し合いを持ち、その都度家族に意向の確認を行いながら、方針を共有し、チームで支援に取り組まれている。看取り体験もされ看取り後はホームでの姿の写真集を差し上げ、感謝している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	ドクターより急変時の指示を頂いており、施設の手車で直接病院に行きます。又は、施設看護師の指示や、ドクターに連絡をして指示を頂くこともできます。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難場所の協力はすでにいただいております。災害時には、町内会の協力、消防団員の協力も頂けます。スタッフ間の連絡網で、出勤外のスタッフも駆けつけることになっています。立地的に松花園は、水害、山崩れの心配はありません。	年2回、通報、消火、避難誘導の自主訓練を行い、慌てず速やかに対応できる様、個々の実践力を身につける様取り組まれている。コロナの為、地域へ周知はされていないが、協力体制は構築されている。災害マニュアルの作成や避難経路の確認、器具の使用方法等もされている。	

自己 外部	項目	自己評価	外部評価		
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の先輩として、言葉遣いや対応など、心掛けています。個人のスペースに入る場合なども、声掛けや、ノックを必ずしています。また、本人がやりたいことなど、スタッフもできる限りの協力をしています。	生活歴を把握し、その人に合わせた声かけや対応をするよう心掛けると共に個々の尊厳を大切に支援をするよう周知されている。又、馴れ合いになっても節度ある対応をするよう取り組まれている。職員間で気付いた時には御互いに注意し合い、プライバシー確保に努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	その人その人の趣味や、進物の発送や、手紙の発送なども、できる限りお手伝いしています。家にいたころにされていたことが、施設でも続けられるように支援しています。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	入居者様が、自分の思いを伝えやすくなるような環境づくりを心掛けています。今食べたいものなども、その日のうちにできるだけ、買い物対応しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	コロナ禍のため、地域への美容院などの対応を中止しています。今回、コロナが施設で発生し、感染されて回復された入居者様が美容院に行きたいと言われたので、今回だけと、美容院に行きました。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	入居者様の平均年齢も90歳となり、以前のように一緒に食事を作ったり、片づけをすることがなくなりました。最近では、誕生日の日に誕生日ケーキを買い皆でお祝いしたり、誕生日者の好きなものを作って食事を楽しんでいます。	ミキサー、トロミ食等個々の身体状況に合わせた形態となっている。外注食ではあるが栄養バランスやカロリー計算もされた食が提供されている。月2回手作りランチの日と決め、その時にはリクエスト食を作られ、職員も一緒に食され、利用者も楽しみにされている。力量によりテーブル拭き等してもらい、張りのある生活に繋げている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の食べられる量をスタッフが把握し、その人に合わせた量を提供しています。外部の食事を提供しているのでバランスは考えて作ってあります。食事量の減っている方には、ドクターに相談し、高カロリーの食品を提供しています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後に、入居者様一人ひとりとスタッフが付き添い対応しています。自分で磨ける人は磨いてもらい、磨き残しなどスタッフが確認して対応しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	トイレで出来る方には、時間を決め声掛け対応にて、トイレでの排泄を心掛けています。また、入居者様の日ごろのサインを見逃さずに、いつもの様子が違うときにはトイレのサインだとスタッフが気づき、トイレ誘導するようにしています。	日中は個々のパターンや表情、行動からも把握し、トイレ誘導をされ、座位や立位する事で機能維持に繋げると共に生活習慣を活かすと共に気持ち良く排泄できる支援に務めている。座位や立位が難しい方も2人介助で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	園庭の散歩や、ラジオ体操など心掛け行っています。ドクターに相談し、その人に合わせた、お薬の処方をしていただいています。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴の時間は午後からと決まっていますが、入居者様の希望があればスタッフのそろっている時間帯であれば対応する様にしています。事故につながる事も考え、すべて入居者様の言われるようには対応していません。出来る範囲内での対応をしています。	回数や時間帯は決められているが、希望があれば柔軟に支援している。できるだけ湯船に入ってもらい、血行促進に繋げている。順番や湯温の希望にも対応し入浴が楽しみとなる支援を心掛けている。拒否の場合はタイミングや声かけの工夫、対応者を変える等清潔保持に努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	入居者様の今までの生活習慣を尊重した対応を心掛けています。パジャマで寝られる方、ジャージで寝られる方、電気を付けて寝られる方、電気を消して寝られる方、個々が安心して生活できるように対応しています。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	往診でドクターが来園してくださり薬の管理もしてくださります。薬の見直しなども先生からの指示で年に2回程度してくださります。スタッフが薬のことをすべて理解していませんが、仕事の役割を分担し、自分の仕事に専念できている。4人看護師もいるのでわからないことなど、看護師に相談		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入居者様の趣味や、今、頑張っておられることはできるだけ支援しています。塗り絵や、手紙・・・園庭の散歩や、ドライブ、園庭の花を見に行ったり、園庭のイチジクを取りに行ったりしています。食べたいものなども聞き出し、お菓子などの嗜好品も、買いに行くようにしています。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	コロナが5類になり、面会も再開しています。コロナ禍中でもお墓参り、花見などの対応はしていました。現在、平均年齢も90歳となり、遠出のお出掛けは難しくなっていますが、何かできないかを考えています。面会も今のところは、身内までとしています。	コロナ感染予防の為、以前の様に外出支援はできていないが、感染予防をし、地域最大のイベントである雛祭り見学はされた。室内行事(季節行事や個々に好きなこと)等を多く取り入れ、笑顔になってもらう支援を心掛けている。又、広いお庭を散歩したり、お庭のお花を見たりすることで季節感を感じてもらう事と五感刺激となる様取り組まれた。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自分でお金を管理されておられる方もいます。グループホームで認知症の方が入居されておられる施設なので、すべての人が可能ではありません。以前、管理されている方の中に、毎日お金が無くなり、スタッフも探すのがとても大変なことがありました。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	携帯電話を使える方は持参されている方もいます。手紙や、塗り絵を、友達に書かれて送られる方もいます。塗り絵の用意や、郵送など、職員で対応しています。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	他のグループホームよりはすべてが広く作られているので、広々としており、木造建築で壁も土壁なのでストレスも少ないと思います。入居者様にとってこられた花や、果物など、リビングに飾ったり、イチジクをアレンジして、おいしくいただいたりもしています。	玄関前には季節のお花の鉢植えがあり、玄関も広く、共有の場や廊下も広く温かみのある木造建築であり、利用者としては馴染みの造りとなっていて落ちて過ごせる環境である。壁には折り紙で作成された季節ごとの作品や行事の際の笑顔いっぱいの利用者の顔写真が飾られている。不快な匂いや死角もなく広々とした共有の場でゆったりと過ごされている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	出来るだけ気の合う方と同じテーブルになるように配慮しています。日ごろは、個々に手作業をしたり、皆でカルタや、トランプ、カラオケなどをして楽しんでいます。天気の良い日には、玄関で歌を歌ったりして、外の風を感じてもらっています。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かし、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	出来るだけ、使い慣れた物を準備して頂くようにしています。生活していく中で、入居者様に合った空間作りをしていけるようにしています。必要なものがあるときには、家族様に許可を取り、スタッフが揃えたり、家族様に持ってきてもらったりしています。	テレビや使い慣れた収納ケース、また、趣味のお茶道具(以前お茶の先生をされていた)等馴染みの物が持ち込まれ自宅に近い環境づくりで、違和感なく過ごされている。又、思い出の写真や時計、カレンダーも置かれている。加湿器、電気敷毛布も持ち込まれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の出来る事、分かることは支援しています。手紙、塗り絵、買い物のお手伝いは現在しています。お菓子、漬物、果物、等入居者様から頼まれた場合には、その日のうちにできるだけ対応しています。		

V. サービスの成果に関する項目【アウトカム項目】

項目		取り組みの成果(該当するものに○印)		項目		取り組みの成果(該当するものに○印)	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○	①ほぼすべての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼすべての家族と
			②利用者の2／3くらいの				②家族の2／3くらいと
			③利用者の1／3くらいの				③家族の1／3くらいと
			④ほとんど掴んでいない				④ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている		①ほぼ毎日のように
			②数日に一度程度ある				②数日に1回
			③たまにある				③たまに
			④ほとんどない			○	④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼすべての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている		①大いに増えている
			②利用者の2／3くらいが				②少しずつ増えている
			③利用者の1／3くらいが				③あまり増えていない
			④ほとんどない			○	④全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き活きた表情や姿が見られている	○	①ほぼすべての利用者が	66	職員は生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が
			②利用者の2／3くらいが				②職員の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③職員の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどない
60	利用者は戸外の行きたい所へでかけている		①ほぼすべての利用者が	67	職員から見て利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が
			②利用者の2／3くらいが				②利用者の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③利用者の1／3くらいが
		○	④ほとんどない				④ほとんどない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼすべての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が
			②利用者の2／3くらいが				②家族等の2／3くらいが
			③利用者の1／3くらいが				③家族等の1／3くらいが
			④ほとんどない				④ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼすべての利用者が				
			②利用者の2／3くらいが				
			③利用者の1／3くらいが				
			④ほとんどない				

(別紙4(2))

事業所名: グループホーム松花園

目標達成計画

作成日: 令和 5 年 11 月 24 日

目標達成計画は、自己評価及び外部評価結果をもとに職員一同で次のステップへ向けて取り組む目標について話し合います。

目標が一つも無かったり、逆に目標をたくさん掲げすぎて課題が焦点化できなくならないよう、事業所の現在のレベルに合わせた目標水準を考えながら、優先して取り組む具体的な計画を記入します。

【目標達成計画】					
優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	2	コロナ禍にのために中止していた、さまざまな事を元に戻していく。	地域ボランティア様に来園して頂く。 面会制限を少しずつ解除していく。 地域イベント参加。 外出や外泊もすすめていく。	少しずつ以前の生活に戻しているが四季を感じられる外出イベントやご家族様との外出なども少しずつ出来るようにしていく。	2年間
2					
3					
4					
5					

注) 項目の欄については、自己評価項目のNo.を記入して下さい。項目数が足りない場合は、行を挿入してください。